



晴海台小学校の合言葉 「大好き! 晴海台! ~ ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさに貢献する子ども ~」



学校だより



晴海の丘

○しっかり取り組もう 勉強
○きっちり守ろう きまり
○もっと使おう ふれ愛ことば



←HPを登録
してください。

令和5年3月13日号

文責 上久木田雄二



All or nothing

最近子どもたちに接していて気になることがあります。

例えば授業中のことです。

国語の漢字の書き取りや算数の計算問題に取り組んでいる子どもが、いきなりやる気を失うのです。

決して最初からやる気がないわけではないのです。突如として気分を害し、投げやりな態度を示し、課題に取り組む意思を見せなくなるのです。

周りの子の手前、取り組みを促そうとすれば、逆に、どんどんやる気を見せなくなります。

例えば、遊び時間のことです。

勢いよく運動場に仲間と出かけていくまでは笑顔ですが、いきなり血相を変えて校内へ戻ってくるのです。

決して仲間と大きなトラブルがあったわけではないのです。突如として気分を害し、仲間と遊ぶことから自分を閉ざしてしまうのです。

理由を聞いても、固まって返事もないことがあります。

いわゆる「キレる」という様子ではないのです。どこかにスイッチがあり、突然オンになる(オフになるのかもしれませんが)という感じです。

どちらの場合も、落ち着いたときに振り返らせると、素直に正直に自分を語りはじめます。悪いとは分かっているのです。しかし、どうしても、その行動を押さえることが難しいようです。

学習のやる気を失っている原因の一つは、「分からない」ということのようにです。

この子どもは、問題を一度読めば、あっという間にやり方がひらめき、答えを導き出せると思っているのです。初読で理解できる時には、やる気を維持することができます。

「もう一回良く読んでみましょう。」「聞かれていることに下線を引きましょう。」「教科書で分からない漢字を調べてみましょう。」「という助言には耳を傾けることができません。

結果、「(初読で)分からない」=「(すべてを)しない」という選択をすることになります。

遊びも同様です。

自分の主張が通るか通らないかが分かれ目になっているようです。自分の主張が通らなければ、仲間と遊ぶことをリセットするのです。

All or nothing は、「すべてか、全くの無か」ということです。中間がなく妥協を許さない様子です。

これでは、心も体も窮屈で、疲れ果ててしまいそうです。

「あきらめ・譲歩・折り合い・受容・寛容・中庸・あいまい・玉虫色・ブレ・遊び」というような言葉で表現される気持ちは、元々子どもたちの中にはありません。経験や育ちの中で、獲得させていく必要性を感じています。

家庭で宿題をしている時や、週末に友達と遊んでいる時に子どもたちの様子を観察してみてください。

